

安満遺跡公園

高槻のセントラルパークともいえる
広大な緑の空間



1. 安満遺跡公園の概要

約 2500 年前の弥生時代に開かれた環濠（かんごう）集落跡を含む遺跡が、大阪府高槻市にある安満遺跡です。

広さは約 72 ヘクタール。濠をめぐらした居住地と水田、墓域が一緒に見つかっていることが大変貴重で、数多くの土器や石器、木製品なども発掘され、平成 5 年（1993 年）国の史跡に指定されている。

だが、この安満遺跡はこれまで、広く知られてはいなかった。この遺跡の上には、昭和 3 年（1928 年）から約 90 年にわたり、京都大学の農場があったからです。

農場の広さは約 16 ヘクタール。JR と阪急電鉄に挟まれた区域一帯に稲作の田んぼ、野菜畑、果樹園が広まっていたいました。

しかし、大学側ではこれ以上の拡張ができないこと、研究の高度化への対応が困難などの理由から、関西文化学術研究都市木津中央地区（京都府木津川市城山台）農場の移転について平成 24 年（2012 年）7 月高槻市と合意された。

※ 大阪府和泉市池上町にある、大阪府立弥生文化博物館は、平成 3 年（1991 年）に開設された、弥生文化に関する資料と情報を収集・保管・研究・展示し、弥生文化に親しみ、学習する、弥生文化全般を対象とする全国で唯一の博物館です。

この弥生文化博物館で弥生時代を理解した上で、安満遺跡公園を散策すると、居住域・生産域・墓域のまとまった国の貴重な史跡としての重要性が良く理解できます。

